

立地別施策

市内商店街を立地や周辺環境等で分け、そのタイプと特徴を整理すると、次のように分類できます。なお、商店街については、48 商店街を記載し、各商店街に記載の番号は、後述の「府中市商店街分布図」とも連動しています。

タイプ	主要駅近郊型	その他駅近郊型	住宅街・郊外型	個別特徴型
立地特性	<p>店舗が集中している「府中駅」、「分倍河原駅」、「東府中駅」を主要駅とし、主要駅からおおむね 500m・徒歩 5～10 分のエリアに立地する商店街です。</p> <p>比較的乗降客が多い主要駅近郊であり、多くの店舗が立地しています。また、狭いエリアに多くの商店街が存在しています。</p>	<p>左記主要駅を除く駅からおおむね 500m・徒歩 5～10 分のエリアに立地する商店街です。</p> <p>乗降客の多少はありますが、駅には隣接しています。駅の改札口等ごとに複数の商店街が存在するところもあります。</p>	<p>住宅街に立地する商店街(駅近郊を除く。)です。</p> <p>住宅街にあり、日常的な生活圏の一部に商店街が立地しています。</p>	<p>個別特徴を持った商店街です。</p> <p>市場の店舗から構成される商店街となります。</p>
具体的な商店街	<p>【16 商店街】</p> <p>東府中商店会(協) 新二商店会 府中銀座商店会 並木通り商店会 宮西二丁目商店会 番場和光会 片町三和会 分倍河原共栄会 府中駅北口商店会 宮西共栄会 府中 35 番街商店会 フォーリステナント会 府中駅東口商店会 くるる出店者協議会 宮西国際通り商店会 ル・シーニュ SHOP PODS 出店者会</p>	<p>【16 商店街】</p> <p>紅葉丘商店会 紅葉商栄会 タマロード商店会 是政駅前商店会 八幡町共和会 本町商店会 府中市住吉銀座通り商店会 中河原鎌倉街道商店会 府中市中河原駅前大通商店会 中河原ひがし通り商店会 中河原駅前通り商店会 小柳南商栄会 むさしの台商栄会 府中本町プラザ商店会 多磨駅商店会 競艇場駅南口商栄会</p>	<p>【15 商店街】</p> <p>美好町商店会 北山商店会 武蔵台商店会 晴見町商店街(振) 栄町親栄会 学園通り中央商店会 新町商店会 浅間山きすげ共栄会 本宿商栄会 新押立商店会 車返団地商店会 新町文化センター通り商店会 是文通り商店会 学園通り商興会 新一いなほ会</p>	<p>【1 商店街】</p> <p>大東京綜合卸売センター事業協同組合</p>

1 . 主要駅近郊型

市内において、特に乗降客数が多い府中駅、分倍河原駅、東府中駅を主要駅とし、3駅それぞれから徒歩圏に立地する商店街を「主要駅近郊型」と分類しました。

主要駅近郊型の商店街の最大の特徴は、駅を中心とした狭いエリアに、多くの商店街が存在している点です。

また、府中駅周辺に関しては、複数の大規模商業施設が相次いで開店し、大規模商業施設単位で商店会を形成しているところもあり、1つまたは複数の通りを起点に個店が集積する従来型の商店街とは異なる、新たな形態の商店街も含まれます。

そこで、各商店街単独での取組により独自性を訴求するだけでなく、複数の商店街が連携を図りながら、新たなサービスやイベント等を行うことが重要です。

その他の特徴としては、市内商店街の中で最も集客力があり、市民や駅を利用する市外からの来訪者という観点だけではなく、外国人や障がいのある方々という観点からも、様々なタイプのお客様が訪れる点が挙げられます。

こうした特性を踏まえて、誰もが安心して買い物ができる、まち歩きができる環境づくりを、率先して進めることが重要です。

「主要駅近郊型」商店街における施策活用のポイントを次のとおり示します。

<<施策活用のポイント>>

- * 商店街同士、商店街と関係機関等との連携強化
- * 各商店街の独自性訴求
- * 外国人対応支援、ユニバーサルデザインの浸透

2 . その他駅近郊型

市内には主要駅（府中駅、分倍河原駅、東府中駅）を除いて11の駅が存在することから、主要駅以外の駅周辺に立地する商店街を「その他駅近郊型」と分類しました。

その他駅近郊型の商店街の多くは、各駅を通勤・通学等で利用する市民がお客様の中心と考えられ、通勤・通学の時間帯を意識した、利用客に喜ばれる商品・サービスづくりを行うことが重要です。

また、コロナの影響により、特に通勤利用者の減少により、商店街を歩く人が減少していることが考えられることから、従来の顧客層とは異なる新たなお客様の獲得に向けた取組を行うことも重要です。

「その他駅近郊型」商店街における施策活用のポイントを次のとおり示します。

<<施策活用のポイント>>

- * 販売形態多様化支援事業（5-1-1）
- * 新たな顧客を誘客するための企画立案・運営力の強化

3 . 住宅街・郊外型

1～2の駅周辺型の商店街とは異なり、住宅街や主要幹線道路沿い等に立地する商店街を「住宅街・郊外型」と分類しました。

住宅街型の商店街の多くは、その地域に住む人と顔が見える関係性を強く持つ個店が集積している点が特徴的であり、日常的な買い物利用が想定される周辺住民に対し、地域に密着した商品・サービスづくりを行うことが重要になります。また、高齢化の加速といった社会環境の変化を踏まえ、買い物弱者対策等を行うことも重要です。

主要幹線道路沿いの複数の商店街では、互いの商店街が近接していることから、各商店街が持つ独自性や特徴を活かしながら、互いのネットワークを強化し、新たなサービスづくりやイベント開催等を連携して行うことが重要です。

住宅街型の商店街の中には、周辺エリアに大学や高校、大規模医療施設等、地域固有の施設が隣接する特徴を有するところがあります。こうした立地特性を活かして、学生等と連携したイベント開催により、若い層における商店街との接点づくりを図ることが重要です。また、医療機関等と連携することで、医療・社会福祉分野での困りごとを商店街として協力する中で、地域課題の解決と商店街振興の両立を図ることが考えられます。

「住宅街・郊外型」商店街における施策活用のポイントを次のとおり示します。

<<施策活用のポイント>>

- * 地域での居場所づくり
- * 見守り支援
- * 新たな顧客を誘客するための企画立案・運営力の強化
- * 販売形態多様化支援事業（5-1-1）
- * 商店街同士、商店街と関係機関等との連携強化
- * 防災や環境問題などの地域課題に取り組むことによる商店街振興

4. 個別特徴型

1～3の分類による商店街とは異なる特徴を有する商店街を、「個別特徴型」と分類しました。現時点では、このタイプに該当する商店街が1か所となります。

元々、卸売市場として、業務用顧客を対象に、生鮮三品や物販、飲食店等、様々な業種の店舗が商品・サービスを提供してきました。流通構造の変化により、エンドユーザーである一般消費者への販路を拡大し現在に至っています。

本商店街については、市内の大多数の商店街とは異なり、生鮮三品が揃い一か所で買い物ができるという特徴を有していることから、こうした強みを訴求した情報発信や、地域住民のニーズの多様化に対応した宅配サービスの活用促進等を進めていくことが考えられます。

「個別特徴型」商店街における施策活用のポイントを次のとおり示します。

<<施策活用のポイント>>

- * 商店街と関係機関等との連携強化
- * 販売形態多様化支援事業（5-1-1）